

専門分野のスキルアップを応援。国内留学制度

NHOフェローシップ制度

国立病院機構では全国140病院のネットワークを活かし、初期研修医・専攻医の方々のスキルアップを応援する「NHOフェローシップ」を用意しています。短時間で専門ジャンルの知識がしっかり身につく、所属病院では経験できない症例などを幅広く経験できる点が魅力です。

国内留学を経験された先生の声をご紹介します。

現在、36病院93プログラム（血液内科、腫瘍内科、呼吸器科、アレルギー科、免疫・膠原病内科、神経内科、脳血管内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、代謝・内分泌内科、総合内科、脳血管外科、外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、救急科、産科・婦人科、小児科、新生児科、小児外科、精神科、眼科、麻酔科、病理診断科）が留学施設として登録されています。制度利用ご希望の場合は、御所属病院の研修担当責任者へご相談ください。

※現在は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により受入を中断しています。

NHOフェローシップ × 経験者の声

プログラム

脳血管・神経内科基礎プログラム

旭川医療センター 脳神経内科 大田 貴弘



留学先病院
九州医療センター

留学日程
2019年12月1日～2020年2月29日

留学期間
3カ月間

2019年12月～2020年2月の3カ月間、国立病院機構のフェローシップを利用し、九州医療センター脳血管・神経内科に国内留学する機会を頂きました。私はレジデントとして、指導医および初期研修医とともに、救急対応・入院加療を担当させて頂きました。所属元では経験のできない超急性期を含めたあらゆる病型の脳梗塞、一過性脳虚血発作、こちらも経験数が少ない脳出血といった脳卒中の患者さんをはじめとし、てんかんや髄膜炎、フィッシャー症候群などの急性期神経疾患の患者さんも含めて担当させて頂きました（3カ月で計54症例）。所属元では脳神経外科がない関係上、rtPA静注療法や急性期血栓回収療法、内頸動脈狭窄に対する外科的血行再建術、脳出血への

手術は行っておらず、これらに触れることができ大変勉強になりました。また、どのようなタイミングでコンサルテーションを行うべきかについて理解を深めることができました。手技については頸動脈超音波検査や経食道心臓超音波検査、経頭蓋超音波ドプラ検査などの検査を施行する機会を得ることで、診療の幅を広げることができました。また、九州医療センターは702床を有する総合病院で多くの診療科があり、適宜他科医師とも相談しつつ、所属元ではみることのできないような多疾患併存患者（例：大腿骨骨折に伴う脂肪塞栓症の患者、心臓外科術後の脳梗塞患者など）の診療についても学ぶことができました。多職種の方々から学ばせて頂くことも多く、特に嚥下リハビリにつ



いて、摂食・嚥下を先行期・準備期・口腔期・咽頭期にわけ、それぞれにおいて何が阻害因子となっているのかの統一したチェックリストが使用されていたのは非常にわかりやすかったです。

最後に、ご指導頂いたスタッフの先生方、レジデントの先生方、メディカルの方々、宿舎の手配をはじめ、お世話になった事務職員の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

疾患名	経験症例数
アテローム血栓性脳梗塞	5
心原性脳塞栓症	6
ラクナ梗塞	5
脳梗塞（分類不能）	12
脳出血	7
てんかん	9
髄膜炎	3
パーキンソン病	1
フィッシャー症候群	1
その他	5